なコメントはできない）
・見るだけで十分
・何を書いていいか（わからない）…

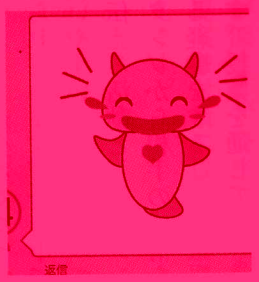
このことから、文章等で気持ちを伝えられるツールとしての考えを持っている生徒と環境的な要因や経験不足から自分から発信することが難しい生徒がいることを確認しました。また、学習を進めるにあたって文章作成が難しい生徒に対しては、気持ちを伝えるツールとしてスタンプの使用を取り入れました。

生徒の実態を踏まえて、今回の実践では、コミュニケーションは文字や短い文章でもできるという視点から、まずは感想（思ったこと）を書くこととしました。

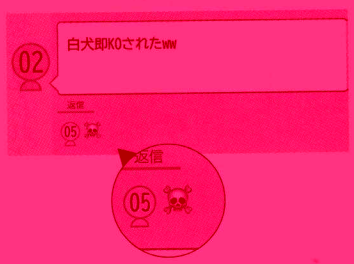
(5) 授業内容

①昨年度、美術の授業で作ったコマ撮りアニメーションの動画を見て感想を書くという活動に取り組みました。感想を書き慣れてきたら、コメントに返信をする。そこで伝えるのが難しければスタンプや絵文字を使ってみるという流れで取り組みました。そうすることで、文章表現が苦手な生徒はスタンプ機能で気持ちを伝え、周りの生徒はスタンプから思い（意味）を読み取ることができると考え活動を行いました。

②その後、全体の場でスタンプの意味を読み取った生徒に確認をしました。その後、返信した生徒に「どう思った?」と投げかけると次のような回答が得られました。



・「ニコニコしてたから褒めているイメージ」や「泣いてるけど笑い泣きしている感じ」など一人一人の受け止め方や認識の仕方などを知る機会となりました。その中でもう一つ「〇〇君だから…」という答えも得られました。



・このことからスタンプに対しても表情を読み取ったり相手のことを踏まえて返信をしようとする様子が見られました。

次に返信欄にあったドクロのスタンプを見せたところ次のような反応がありました。

・会話の流れ的に悪いイメージはない
・やられたって意味ならドクロでも（いいかも…）
・〇〇君だから（変な意味ではない）…

このことから、相手がわかるということが生徒たちの中で安心感になり、相手が不快になるようなスタンプは相手がどんな人なのかわかった上で相手との関係性や人柄を見て選んで使用していることがわかりました。

～相手が誰かわからない状況でコメント機能を使う～

教師も交えて数字が記入されたくじ引きを実施し、誰が何番かは知らせずに感想コメントを打ってもらいました。併せて教師にコメント欄